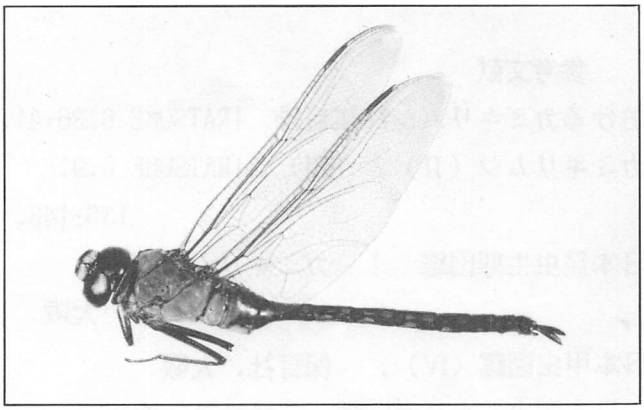
クロスジギンヤンマを９月下旬に採集

上田尚志

クロスジギンヤンマは，５・６月をピークに４月上旬から９月下旬までの記録があるが，９月下旬に出現することはきわめて稀である．筆者は1984年９月23日，関宮・大屋町境の杉ケ沢高原にて１♂を採集したので報告する．

この日，次々に飛来するルリボシヤンマに混じって，鮮やかな青い斑紋を持った個体を発見し，ネットインした．本個体はスジボソギンヤンマときわめてまぎらわしく，一見中間的な形態を有していた．しかし，尾部下付属器の構造等からクロスジギンヤンマであることが判明した．クロスジギンヤンマの８月以降の個体にはスジボソギンヤンマと類似の傾向を示す個体があるので，注意を要する．



クロスジギンヤンマ
Anax nigrofasciatus
nigrofasciatus Oguma
1♂，1984-Ⅸ-23，
杉ケ沢高原，上田尚志採集

体長 80mm ，後翅長 49mm ．額の紋はＴ字となるが細い．単眼間瘤・後頭三角は黒色だが淡色部分がある．脚の腿節も通常型よりやや淡色部が目立つ．胸側黒条は細く完全である．翅の黄色部は全体にうすく存在する．腹背４～７節は黒地に３個の青紋がある．尾部下付属器は通常型より短い．背面棘列は通常型と同様に末端近くに位置する．上付属器先端の内角は，通常型より鈍い．

なお，本個体は谷角素彦氏を通じて井上清氏に同定して頂いた．また谷角氏には多くの資料を提供して頂いた．あわせて謝意を表したい．

（注）スジボソギンヤンマ（通称）

1968 年８月３日大阪市で初めて採集されたもので，日浦勇氏が「謎のギンヤンマ」として発表された．その後「ギンヤンマとクロスジギンヤンマの種

間雑種であろう」とされている．

文献

1．日浦勇，謎のギンヤンマ．Nature Study，14巻10号（ 1968:10 ）．
2．井上清ほか，日本産トンボ大図鑑，pp.232～233 ．講談社．
3．石田昇三，原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編，pp.127～128 ．保育社．

２日目に羽化を完了したギフチョウ

木下賢司

少し古い記録ではあるが，羽化を失敗したと思っていたギフチョウが，翌日になってからやっと翅を延ばし，ほぼ完全な個体となった例があるので報告する．

1980年に，出石町袴狭より卵を持ち帰り飼育を行ったところ，38個体が蛹化，家の北側軒下で越冬させていた．問題のギフチョウはこのうちの２頭である．

1981年３月30日，曇天．午後３時ごろ，羽化の準備のために蛹を室内に移し網をかけていたところ，突然に３個体が羽化を開始した．このような状況下での羽化を見たことがなかったので，興味を持ち観察していると，１頭はすぐに網を登り，30分後には完全な個体（♂）となった．

しかし，他の２頭は，蛹の殻を破ったもののあまり元気はなく，わずかに動く程度であった．網に登る様子はなく，翅もほとんど延びずに，ついに夜を迎えてしまった．

完全な羽化の失敗と思い諦めていたところ，驚いたことに翌日の３月31日午前９時ごろに，２頭とも再び動き出し，元気に網を登って翅を延ばし始め，30分後には完全な個体（２頭とも♂）になった．

今までの経験では，羽化直後に翅の延びなかった個体が，その後完全な成虫になった例を知らない．ちなみに他の蛹35個体は，４月４日以降，相次いで羽化をし，15♂18♀（羽化しなかったもの２）となった．

この報告を出すにあたって，ギフチョウの蛹について，姫路の広畑政己氏からいろいろとご教示いただいた．誌面を借りて，お礼申し上げる．